

令和2年度第3回白井市総合計画審議会

議事概要

日時：令和2年7月17日（金）午前10時～正午

場所：白井市役所本庁舎4階大委員会室

出席者：【委員】

関谷 昇会長、助友 裕子副会長、手塚 崇子委員、黒添 誠委員
秋本 茂雄委員、野水 俊夫委員、近藤 恭子委員、鈴木フミ子委員
佐藤 峰委員、山本 昌弘委員

【事務局】

津々木企画財政部長、永井企画政策課長、富田主査、武藤主査

傍聴者 7名

1. 開会

2. 議題

(1) 前期基本計画の総括評価の結果について

(2) 後期基本計画の答申に向けて

【会長】

議題1と議題2について、続けて事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料に沿って説明

【会長】

事務局のほうから、前期の基本計画の総括評価の結果と、後期基本計画への反映ということで説明をいただきました。後期の基本計画の施策内容については、皆さんにもこれまで議論を頂戴してきているところですが、今後は後期基本計画の答申に向けて協議を進めていくということで、答申までの流れについても併せて説明をしていただきました。

今日は、説明いただいたことに対して、委員の皆さんのほうから御質問、御意見を頂戴できればと思っております。

前期の基本計画の総括評価結果については、これまで皆さんに後期の基本計画の中身について議論していただいた、その前提になっているものですので、ある程度、皆さんのほうでも御了解いただいているところですが、今日の段階でどうしてもという御意見がもしありましたら、御質問等、御発言をいただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

【委員】

施策評価シートについて、総括のA、B、C、Dというのと、成果指標のA、B、C、Dというところにずれがあって、どういう計算でA、B、C、Dがはじき出されているのかというのがとても分かりにくいので、統一したほうがいいのではないのでしょうか。あるいは、統一が難しいのであれば、この成果指標のA、B、C、Dと、総括のA、B、C、Dの関係について、特にCとDが結構違うので、ここの説明がどこかにないと、整合性がないというふうに思っているのですが、これをどのように扱うのかということをお教えください。

【事務局】

例えば、資料1-1の総括評価シートの1ページを見ていただくと、成果指標では達成度として、A、B、C、Dと目標値に対してどの程度近づいているかというところで、パーセンテージに応じて指標ごとに達成度を記載させていただいております。

4番の前期基本計画の総括についても、同じA、B、C、Dで若干分かりづらい部分がありますので、その点は今後工夫させていただきたいとは思っておりますけれども、こちらの前期基本計画の総括については、成果指標、それから、住民意識調査の結果とか、定性的な評価の部分、そういった全てを踏まえて、総括として、ここではBということで評価させていただいております。それらの関係が分かりづらい部分がありますので、その点は工夫して記載を改めさせていただきたいと思っております。

【委員】

5ページの成果指標の達成度は相当低いのに、6ページの総括評価ではBとなっていて、定性的なものや定量的なものを比べると差があるので、分かりやすい説明が必要です。委員が評価したように受け取られないよう、ぜひ工夫をしていただければと思います。

【会長】

他にいかがでしょうか。

【委員】

行政の姿勢について、ちょっと厳しいことを言わせていただきます。過去のごみの不法投棄に関連する状況や、川沿いの草木の管理状況を見ていると、白井市内をきちっと巡回して見ているのかという感じがしています。これを防ぐためには、年に数回でもいいから、白井市の職員や議員、自治会などが一緒になって、白井市内をくまなく視察して、問題はどこにあるか共有していかないといけないと思います。これが一つの提案です。

【会長】

今日は自由に御意見いただければというふうに思っておりますので、この今の御意見も頂戴したということで、後期の基本計画を巡る御意見については、この後、頂きますけれども、この前期の基本計画の総括について、もし何かございましたら御発言をいただいて、もしないようでしたら、後期の御意見、あるいは答申の中身について御議論いただければ

と思いますけれども。この前期の総括について、いかがでしょうか。

【委員】

総括評価シートを見ていきますと、今までの実績値と目標値と、達成度がすごく量的に視覚化されて分かりやすくいいなという感想を持ちました。

一方で、今後に向けてにもつながるのですけれども、例えば、市民の割合や数、平均といった数値が出ていますが、あくまでも市民全体の平均的な数値にしかならないと思います。恐らく、目標値としてどんどん達成されていく、けれども、もしかしたら、単に人と人との間の格差が広がっているに過ぎなくて、実は本当に底上げをしないといけない人たち、ターゲットがいるかもしれないというところも考えていかないといけないなと思いました。

例えば、この資料1-1の15ページを見ていて感じたのですけれども、15ページの成果指標の上から3番目、地域で孤独感を感じている市民の割合。これは変わっていないわけです。現状維持でも、もしかしたら、一部の人がすごくお友達が増えて、でも、一部の人たちはますます孤独になってというふうになったとしても、この数値としては変わらないわけです。

ということを見ると、例えば、教育は本当に格差が広がる最たるものだと思っています。一部の人たちは教育の機会が生涯学習などで確保されても、一部の人たちはますますアクセスできないなんていうところを見ると、例えば、昨年度、武蔵野市の生涯学習計画の策定に関わったのですが、武蔵野市の場合は、「学び送り」という概念を造語で作りまして、一部の人たちだけが学んでいくのではなく、その学びを広げていくところからまちづくりを進めていくといった取組もありますので、平均値が出てきたら、その次にやるべきは、それぞれのターゲットに焦点を当てて、どういうふうになっているのかということまで見ていくことができると、底上げにつながるなと思いました。

【委員】

先ほど、この前期基本計画の総括の4番の評価について委員から質問があったのですけれども、もともと審議会で決めていたのでしょうか。

先ほど、答えとしては、定性的なものを工夫して、この評価を考えますというような事務局の説明があったのですが、審議会において、最終的にはCにしようかとか、Bにしようかということを決めるのでしょうか。どういう予定にするのか、誰が決めるかを確認しておきたいと思います。

【事務局】

資料1-1の4番の前期基本計画の総括の評価の部分につきましては、これは庁内の内部での評価結果となっております。各施策を担当する部長により、このような評価をさせていただいております。

先ほど委員からありましたように、成果指標の部分と、ここの総括の部分のつながりが

少し分かりづらいというところがありましたので、4番、総括のところの評価理由のところに、もう少し考え方を追記するような形で評価理由を修正させていただきたいと思いません。

あくまでも、ここでの評価は内部での評価ということで、今後、答申に向けて御意見をいろいろ頂きますけれども、この審議会で頂いた御意見を施策ごとに整理しまして、その下の6番、総合計画審議会の意見の部分に、後期基本計画の推進に向けた意見を記載させていただきたいというふうに考えております。

【委員】

ここに記載されている評価については、担当部門長が決定した決定事項で、それに対してどうかということは、6番でそれについて意見を出すことが可能ということによろしいわけですね。

【事務局】

6番には、後期基本計画に向けて、この審議会として意見を付していただくということを想定しておりますので、後期基本計画の推進に向けた協議をこの後進めていただく中で出された意見を施策ごとに事務局で整理させていただきまして、このシートに記載させていただきたいと考えております。

【委員】

分かりました。

【委員】

昨年度は、ここで結構ワークショップとかをやって、その中でBとかCとかAとかやるプロセスがあったのですが、今年度はそれがなくなっているという理解でいいのでしょうか。

【事務局】

昨年度の時点では、今年度も同様な形で少し深い評価をというふうには考えていたのですが、新型コロナウイルスの関係で、後期基本計画策定のスケジュールの見直し等もありましたし、どうしても評価するとなるとかなり長時間の会議になってしまうというところがありますので、それらを踏まえまして、今回は総括評価については内部での評価とさせていただきまして、この審議会で今後に向けた御意見を頂くことを重視しようという中で見直した結果になります。

【委員】

分かりました。

【委員】

資料1-1などで示されている施策指標は、この資料3の後期基本計画にある取組指標のことと考えればよろしいですか。別でしょうか。

【事務局】

資料1-1の成果指標については、これまで外部評価等をしていただくための指標として用いていた指標です。

資料3は、成果指標と取組指標というところで、ちょっとレベル感をずらした形で記載させていただいておりますけれども、資料3の成果指標と取組指標を合体させたものが、資料1-1の成果指標というふうに考えていただければいいかというふうに思います。

前期基本計画の段階では、成果と取組というふうに段階的に分けて指標を設定しておりませんので、両方が混在したような形になっているところです。

【委員】

分かりました。今までのやり方では、あらゆる指標の平均的なものを総合的に評価とされているのですが、それはあくまで結果と捉えてはどうかと思いました。各取組指標がこんなにそれぞれ上がりました、だから総合的にこうですではなく、一つ成果指標を決め、その数値によって評価してもいいのかなと思いました。

【委員】

評価については、前回までは審議会の委員の意見を聞いて決定していました。新型コロナウイルス感染症の影響もありますが、今回だけ、職員による内部の評価となると、今までと視点や見方も異なり、客観的な評価となっているか懸念されます。厳しく自分たちを評価すればCという評価を出しているかもしれないし、そうでなければBかもしれません。新型コロナウイルス感染症対策の中で大変だったと思うのですが、計画の評価については、継続して委員を務めている私たちも責任があると考えています。

ですので、他の議題の時間を削ってでも、評価について考えてみてはどうかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

【事務局】

いろいろ意見ありがとうございました。

確におっしゃることは非常によく分かります。我々も当初、先ほど回答をさせていただいたように、今回は総括になりますので、書面でやり取りしづらい内容であるということから、お集まりいただきながら時間をかけて意見を交わしていただくということが必要と考えておりました。

ただ、コロナ禍により、会合を持つことが難しい中でどういう形ができるのかを考えていった結果、苦渋の決断により、今回は、内部評価に対して、次につながるための御意見を頂いた形でまとめさせていただきたいと考えさせていただいたところでございます。

全体のスケジュール等々も考えますと、今回の形で進めさせていただけたらと考えております。

【委員】

例えば、この4番目の総括は、担当課の評価であることを記載させていただいて、総合計

画審議会の意見において、そういう評価だけれども我々はどう思うといったような書き方をさせていただくということでもいいということによろしいですか。

【事務局】

はい。表示の仕方につきましては、工夫させていただきたいと思います。

【委員】

4のところは書いていただいたほうがいいと思って、あえて6のところでも部で出した評価についても、こちらのほうで意見を述べるという形だと、こちらの委員会の意見が反映されるという形になるのかなとは思いますが、その中でも。

【会長】

評価の部分についてはいろいろ御意見を頂いていますので、まとめて事務局のほうから説明をいただいて、答申の御意見のほうに入っていければと思います。評価について説明をお願いいたします。

【事務局】

先ほどの補足をさせていただきたいと思います。私どもも前期の総括評価は重要と捉えておきまして、もともと年度当初の想定では、各戦略の柱ごとに1日を取って、昨年と同様に意見交換、それから評価という流れで行う想定をしていたところです。しかし、このような情勢となり、委員の皆さんに集まっていただいて会議を開催すること自体、非常にリスクが高く、開催しても長時間行うことは難しい中で、今回どういう形がとれるのかということの中で、未来志向で、次の計画に向けた助言という形に絞らせていただき、御意見を頂戴するというところで考えさせていただいたところでございます。

先ほど、やはり評価に対してお墨つきをというところでの思いがおありということですので、表現につきましては、工夫させていただきながら進めさせていただきたいというふうに考えています。

【会長】

評価の仕方については、この後も答申の議題の中で、また今後、全体としてどういうふうな評価の在り方がいいのかという意味合いで、御意見を頂戴できればと思います。前期の総括評価について終了し、次の議題について御意見を頂きたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、これも先ほど説明をいただきましたけれども、後期基本計画の答申に向けてということで、資料の2です。

一つは答申に付する意見についてということで、前期の基本計画について審議会で答申をしたときには、全体についての意見を付すだけでしたけれども、今回、事務局の提案では、案1のとおり前期と同様に全体についての意見を付すか、それとも、柱ごとに御意見を頂いてきておりますので、案2のとおり各重点施策の推進に関する意見として取りまとめたものを付して答申にするかとありますけれども、何か御意見はありますか。

【委員】

評価については、白井だけでなく、他自治体と比較してはどうでしょうか。財政が豊かなところと、税収が目減りしていくところとの地域格差が生じており、実現できないところはできないとか、他自治体に対して何がどのくらい遅れているとか、正直に言っていくべきだと思います。

【会長】

この答申の中身の前に、答申のスタイルとして、特に問題がなければ、案2のほうでいいのではないかと思います。案2のような形で、答申書に全体に関する皆さんの御意見と、重点施策ごとの意見、これまでたくさん頂戴して、今日の資料の中にも、ある程度まとめたものを書いていただいていますけれども、こういった形で、提出をするということで御了解をいただければと思います。

そのことを踏まえた上で、今日と次回にかけて、この後期基本計画の素案ですね。この資料の3についての我々の意見を取りまとめた上で答申書に付すということになりますので、答申書に付す意見として、皆さんのほうから御意見等を頂ければと思います。

先ほどから、この評価の部分について御意見を頂いていますので、評価をどうしていくのか、なかなか難しいところもありますけれども、こういう評価の仕方をしていったほうがいいのではないかとということで、幾つかの意見を盛り込めればというふうに思っています。

先ほどから出ているのは、今年度は評価できませんでしたがけれども、この前に年度ごとに施策を分けてワークショップを重ねたりとか、評価をしてきました。それも含めて、この総括評価ということになっているのだと思うのですがけれども、その評価の出し方、見せ方という部分でもうちょっと工夫が必要なのではないか。先ほど、委員がおっしゃったように、後期では成果指標と取組指標というふうに分けて、ある程度成果を問うことができるような形に一步前進はしているところが見受けられますけれども、これをどういうふうに評価していくのかということは、さらにもうちょっと詰める必要がありますので、しっかり成果を問うことができるような評価、進捗管理というものをしっかりしていくようにするという事は、改めて明確に盛り込む必要があるのかなというふうには思います。

あと、先ほどから出ていますように、成果指標と、それから全体の評価との関係というのがどうもよく分からないと。この辺も成果指標としての評価と、それから様々な調査結果等も含めた全体としての評価というふうな違いがあるというのが先ほどの説明でしたけれども、この辺も、本当にそれでいいのかどうかということも、もう少し詰めて考える必要があるということ。

それから、指標の中の平均値というところから、評価と次なる取組というものを出していただくだけでは、実情を捉え損なってしまうのではないかと。平均値というだけでは、なか

なか実態を表すことができないというふうな部分というのは、いろいろな課題ごとにある部分ですので、平均値だけではなくて、仮に数は多くはないかもしれないけれども、こういう実態があるのだと。漏れ落ちている部分があるのだというふうなところをしっかりと捉えて、そこにもちゃんと目を向けていけるような、そういう評価の仕方、あるいは次なる取組への結びつけ方、この辺も考えていく必要があるというのが先ほどのお話だったかと思っておりますので、その辺も含めて、評価の在り方、進捗管理の在り方をもう少し精緻にさせていただく必要があるということも、ぜひこの答申の意見の中に盛り込めればと思います。

あと、先ほど委員のほうから、他市との比較というのももっと積極的にやっていくべきだということも非常に大事な御意見かと思っておりますので、どうしても白井市内部での評価ということにもなりがちな部分はありますけれども、そういった他市との相互比較というのも非常に大事な視点ですので、それも踏まえておければなというふうに思います。

これ以外に、もし評価等に関する御意見があれば、そのことをさらにおっしゃっていただいても構いませんし、あとは全体に関すること、それぞれの重点施策ごとで御意見があれば、ぜひ御発言をいただければと思います。

【委員】

評価について、後期の計画でもまだよく分からないなというのを、この素案を見ながらお話ししたいのですが、例えば、1-1の戦略で、資料3の8ページになりますけれども、成果指標と取組指標が分かれていて、一見、より評価が適切になるように見えるのですが、多分、取組指標を行われた結果、成果指標が達成されるということだと思っておりますけれども、この成果指標の二つと取組指標の関係性が示されていないので、このままだと、またきちんと評価ができないような後期計画になってしまうのではないかという懸念を私は持っております。

【委員】

今の委員の御発言に付け足しで御提案したいのですが、ここに成果指標と取組指標と分けて書かれた部分が、今回の後期基本計画の進捗だと思うんですね。それをぜひ図式化していただいて、ロジックモデルをつくっていただいて、小さくなくてもいいので、一覧でその関係性が一目で分かるというものを作っていただくと、実際、成果は出ていないけれども、取組はちゃんとやっているよね、これ、もしかして別の取組のやり方があるのではないのかなという議論がここでできていいのかなと思います。ここの議論の場でもそうですし、職員の方も日頃そういったロジックを意識できるように、意識づけや見える化をしていただくと、ますます計画が推進されるのかなと思っております。

【委員】

私も、この新しい基本計画というのを読んだ中で、自分のところと関わりのあるところで見ますと、戦略の1-2、働く場を生み出すまちづくり、10ページなのですが、この成果指標は市内就業率33%ということなので、現状しか出ていないのですが、

これまでは、目標実現に向けた取組、これは、前の5か年計画なのですが、これは工業団地での市民の雇用拡大ということが一番に掲げられていて、そしてまた、前期の基本計画の総括評価シートでも、工業団地市民雇用率というのが掲げられているのですね。これが、目標値が23に対して、だんだん下がってきていますが、市内の就業率を上げていくことが大事で、工業団地だけで頑張ってくれよということではないのですね。

ただ、我々はこの場ではあまり議論はしていないのだけれども、部長の会議でこういうことになってきたのか、どのような形でこの成果指標が変わってきたのか、何かそういう説明を頂きたい。

そしてまた、この1-2だけで話をしますと、取組指標も、例えば、起業者数というのと前の創業者数と、どういうふうな意味合いで言葉を選んでおられるのか。そういう具体的なものも知りたいなというふうに思うのですね。取組指標でも進出企業数、現状値はないよということなので、こういうものを入れていくのかどうか。そのところもお教えいただければと思います。

【事務局】

3点ほど頂いたかと思うのですけれども、まず一つ目の工業団地での市民雇用率の指標についてなのですけれども、工業団地での市民雇用を促進するというのを後期でやめるという意味ではないというところで、市民の方の就業状況というものを見てみると、昔は東京都にお勤めの方が多かったということがあるので、近年のお勤め先を見ると、どちらかという県内の近隣の市で、白井市もしくは県内の近隣の市でお勤めの方が増えているという傾向にあります。ですので、この若い世代の定住に向けて、白井市内で働いていただくということはもちろんですけれども、その方の御希望に応じて、近隣市で働いているけれども、白井市に住んでいる。そういったところも促進していきたいというところで、そういった意味での市民の就業を支援していこうという取組を、目標実現に向けた取組の(1)に掲げさせていただいているところです。ですので、自市内での就業プラス近隣市での就業。ただ、住んでいるのは白井市というような形を進めていきたいというように考えております。

そして、二つ目の起業者数というところと創業者数というところで、前期と後期で表現が違う部分はあるのですけれども、こちらは同じ意味合いで捉えております。

そして、三つ目の進出企業数については、現状値ありませんけれども、これは累計を目標値にしておりますので、現状がない中で1社出てくれば1、次にもう1社出てくれば2というような形で累計で積算したいというふうに考えておりますので、現状値をないというよりはバーというふうにさせていただいているところです。

【委員】

総合計画というのは、いわゆる市の計画の窓みたいないところじゃないですか。それで、前期基本計画の冊子55ページを見ると、そこに関連した各分野の計画というのがあるわけ

ですよね。例えば、策定予定の計画というのもたくさんあって、多分、この総合計画ができたとしても、具体的な細かい計画とか実施というのは担当課になるはずなので、計画の全体に関することというところに入れていただいているのかよく分からないのですが、関連の計画との連携や役割分担を明確にして進めていくことというのもとても大事なのかなというふうに思っております、そこをどこかで書いていただければなというふうに思っております。

例えば、第2次環境基本計画というのが、今、策定されているところで、後期の総合計画と同じ期間となると思うのですね。それは戦略の2のみどりに関わるのところ、特に2-2と関係してくるわけですね。というようなときに、誰が何をやるのか、何を協働してやるのかというのが明確でないまま進めてしまうと、成果指標が達成できないということになってしまうと思いますので、どこかにアラインメントという言葉がいいのか、あまり片仮名は使わないほうがいいと思うのですが、分野別個別計画との連携及び分担を明確にしながらか進めていくというところを付記していただきたいです。

【事務局】

総合計画と分野別計画の関係についてなのですけれども、先ほど委員がおっしゃられた前期基本計画の冊子の55ページで計画の全体像を示させていただいております。

そして、資料3の素案のほうになるのですけれども、1ページのところで、基幹計画の部分だけになるのですけれども、市の計画体系というところで整理をさせていただいております。

白井市のまちづくりの進め方としては、総合計画を頂点としながら、先ほど委員がおっしゃられたように、それぞれの計画が同じ目標に向かってそれぞれ連携、役割分担をしながら取り組んでいくということをこの部分でお示しさせていただきます。ですので、委員がおっしゃられたように、各計画同士の役割というのは、計画を作る段階で、企画政策課も各課の計画づくりに算入しながら、お互い連携を図りながらつくっているところでございます。その旨を答申書のほうに付記させていただきたいというふうに考えております。

【委員】

この55ページのものですと、教育大綱とコミュニティ基本計画については米印になっていますが、この1ページのところでは全て米印が外れているので、全て計画が整っているという理解でよろしいですか。

【事務局】

米印の部分で、今ない計画は、産業振興計画と、地域・安心の部分のコミュニティ基本計画の部分になっております。素案では、1ページには米印を付しておりませんが、後期基本計画をつくる段階で同じように資料編としてこの55ページの表を入れる予定でおりますので、その際には米印が入った形で資料は作らせていただきたいと思っております。

【委員】

コミュニティ基本計画は、このポストコロナというところで、とても大事になっている計画で、健康なまちづくりですか。そこにもものすごく関わってくるようなことだと思うので、もしできていない計画については、米印プラス、いつできる予定なのかというのを、付していただいたほうがよいのかなと思って。進捗がいろいろ遅れているというのはとても分かるのですけれども、割と大事なことがないまま、3-2とかできるのかなというように。多分、この3-2はとても大事になってくると思うので、そのときに分野別の計画があるというのは、とても大事なところだと思います。

白井は先ほどもお話ありましたけれども、税収がどんどん減って行って、数字的には何も魅力がない町になりつつあるときに、でもコミュニティというところでは安心して暮らせるよというのはとても大事だと思うのですね。なので、全然これが未整備で当てもないのであれば、非常に急いでやっていただきたいなということ。

あとは、産業振興計画はものすごい大事じゃないですか。白井や近隣でも働けると、東京に通わないでも働けるのだというのは、今から白井をプロモートしていく上で非常に大事ですよ。そこについて、どうなっているのかなというのは市民全員が思っていることだと思いますので、よくよく説明していただければなというふうに私は感じております。

【委員】

産業振興計画については、ここに間に合わせたいということで努力はしてきたのですが、現時点では、1年延期をするという予定でおります。

逆に言うと、コミュニティ基本計画はどのような状況なのかは、私も伺いたいと思います。

【事務局】

産業振興計画については、今年度、策定していただく予定でしたけれども、こういった感染症の状況を踏まえて、1年延期というところでの判断となっております。

そして、コミュニティ基本計画についてなのですけれども、まだ着手している状況ではありませんで、後期基本計画の期間中に策定をしていきたいというふうに考えております。ただ、このコミュニティ基本計画、後期基本計画の中では、コミュニティ基本方針というふうにさせていただいておりますけれども、この方針策定はすぐできるものではありませんので、市民の方々との合意形成等を踏まえまして策定していくこととなりますので、少し2年スパン、3年スパンで策定していくということで、現在、担当課と調整しているところです。

明確に今の時点で何年度に策定するという目標は、まだ定まっていないというところで、詳細は今後また詰めさせていただきたいというふうに考えております。

【会長】

個別分野計画をしっかりと有機的に結びつけていくということも、この資料の2の計画全

体に関するということ、3ページにありますけれども、この辺をぜひ意見として盛り込めるといいのかなというふうには思います。

計画全体に関するところがこの3ページにあって、戦略1、2、3というのは、それぞれ4、5、6ページにあって。皆さんがこれまで書面を中心にいろいろ意見を出してきていただいていることが、ここにある程度取りまとめられておりますので、これを踏まえた上で、さらにこういうことも盛り込んでおいてほしいというような御意見がありましたら、お願いをしたいと思います。

今日は特に取りまとめをしませんので、今日出していただいた意見も含めてまとめた、こういう形で答申として出すというものは、次回、皆さんに御確認をいただいて、最終的に確認をするということにしたいと思いますので、今日のところはこういうことで盛り込むべきだという御意見を頂ければと思いますので、他に御意見がありましたら、お願いをいたします。

【委員】

先ほど、白井がこれから税収が目減りして、全然魅力ないところだとありましたけれども、白井はもう独自でやるという路線は捨てたほうがいいと思うのですよ。白井の利点としては、優れた立地条件にあって、東京もすぐ行けるし、千葉県も1日で全部回れてしまうし、とにかくいろいろなところとコラボしてやれるところが利点だと思うのですよ。

でも、その場合には、やはりいろいろなところとコミュニケーションを充実していただかなければ絶対不可能です。例えば、農業に関しても、プレゼン能力がなければ、絶対ブランド化はできないから、今、農業では、地域一体から、個人のブランド主義になってしまっているのですよ。プレゼンできないような個人では、絶対もう売れないのですよ。

そして、市場価値からいったら、この地域は地元農産物があまり出回らないと言っていましたけれども、高く買ってくれるところを目指して、東京とかに行ってしまうのですよ。

だから、いろいろなところで白井は厳しい状況に置かれていますけれども、どうやって打破するかといったら、一つは他市町とのコラボとか、いろいろなところにコミュニケーション能力を使ってアピールしていくしかないと思うのですよ。まず、その第1条件としては、コロナでも言われたとおり、ネットを駆使したアピール能力だと思うのですけれども。白井はそれが一番遅れていると思うのですよ。若い人が情報源としてインターネットをまず見てますから、そこら辺の充実を考えてほしいなと思います。

【会長】

白井内部だけで完結するのではなくて、もっと幅広く資源の移動であるとか、共有であるとか、活用というものを考えていく。この辺、戦略2とか3にも、ある程度、そのような御意見が盛り込まれていますので、ぜひそれもお伝えできればなというふうに思います。

【委員】

地域、この北総地区とかで、計画がないとできないことがたくさんありまして、そことの連携というのをどう考えていくのかということのも大事なもので、例えば、イノシシの被害は、イノシシが印西から白井に来ますよね。不法投棄も他から来ますよね。というところで、白井市というところに凝り固まっていたはできないことについて、総合計画よりも上位に、市民団体と協働してプラットフォームみたいな形で、計画があったほうがいいものについては、積極的に連携して進めていくというのがとても必要なのかなと。それをどう盛り込んでいただけるのか分かりませんが、提案したいなと思います。

【会長】

その点は同感のところ、この素案の3ページのところに、補完性という考え方、改めて今回整理して説明をいただきましたけれども、まさにそれなのですよね。

つまり、白井でできることもあるけれども、できないことというのをもっと広域的にやっていく必要があると。今の自治体行政は、市町村と県の間がなさすぎるのですね。非常に問題であって、多分、今後は相当、広域行政ということは、都道府県レベルではなくて、もっと多様な形も問われていくところかと思えます。

今おっしゃったように、そういう負の部分はどういうふうに共有していくのかという部分はありますし、先ほどあったように、もっと価値づくりという点で、もっと広域的にやっていったほうがいいのだというふうな分野テーマというのはたくさんありますので、そういう意味では、広域行政というものをどういうふうに考えていくのかというのは、一つの大きな課題にはなっていくと思います。

これは誰がやっていくかというのは、別に一つではなくて、例えば市民活動団体とか市民の方々ももっと行政という垣根を越えて、様々な交流をして課題を共有して、できることを一つ一つ膨らませていくというふうなやり方もあれば、例えば、これは市長でもいいし、議員でもいいですけども、もっとそういう近隣の自治体との連携というものをどんどん模索していくというふうなやり方もありますし。千葉県がもっと広域的な形でどんどん提案をするというふうなことももちろんあります。

ですから、いろいろな角度からこの広域連携ということは考えていく必要があるのですけれども、御指摘のような非常に重要性というものがある中で、白井市としてもどういう考えを持っていくのかということは、今後問われてくるころかなということ併せて補足しておきたいと思えます。

【委員】

このコロナ禍の中で、今、地域コミュニティづくりはすごく難しくなっていて、実際に自治会の役員の会合さえ開けない状況でした。その中で素案にあるような、24ページとか22ページにあるような地域拠点でつながる健康的なまちづくりは、このコロナ禍の中でコミュニティを醸成していくこと自体が難しいのに、さらに発展するという視点はちょっと

修正したほうがいいのか。コロナ禍の中では削るものは削って、無理なものは無理と諦めるといふか、軌道修正する必要があるのではないか。マスクして会合しなければいけない時代で、コミュニティはつくれるのでしょうか。そんな絵に描いた餅のような戦略でいいのだろうか。他にもいっぱいあると思うのですけれども、コロナ禍の中で、今後、後期どうやっていくかというのを視点に置かないと、これからは削っていく時代、発想も必要かなと思うのですけれども。

【会長】

このコロナの影響下でコミュニティづくりをどうしていくのか。今回のこの計画になかなか盛り込みきれないというところはあるとは思いますが、実際、今、総合計画づくりを行っている自治体は、1年遅らせてやっていくというところもあるのですね。ですから、それはそれぞれの自治体の実情、状況判断もあるとは思いますがけれども。

ただ、御指摘のように、このコロナ禍の中でコミュニティ、これまではどうしても集まることがいいことだ、密がいいことだというふうに考えられてきたのが、密を避けろというふうに真逆のことが言われているという中で、このコミュニティというのをどうしていけばいいのかということは大きな課題で、だからもうコミュニティでは駄目なのだという議論も、実は結構出始めているのですね。それは本当にいいのかと。これから、もう全部ネットにつながっていく時代だと言う人もいます。

私は、むしろ、だからこそコミュニティが大事だと思っている立場ですけれども。ただ、その場合は、密としてのコミュニティだけではなくて、もっと多様な回路を通じて人がつながるといふことができる。そういう豊かな手法、豊かな視点というものをもっと今まで以上に盛り込んでいかないと、これまでの視点だけでは、御指摘のように多分、会合も開けない、活動もどんどん自粛だといふふうになっていってしまうので、枯渇の一途をたどる。

だから、その辺は少し時間をかけながら洗い出して、できることをどんどん膨らませていくといふことをやる必要があると思いますので、その辺はこの計画の運用の中で、並行的に考えていく必要があるのかなといふふうに思いますけれども。ただ、これをどうするかといふことは、ぜひ答申の中でも強調はしておきたい点かなといふふうに思います。他にいかがでしょうか。

【委員】

例えば、現在では横断的視点が災害に強いまちづくりとなっていますけれども、今、御指摘のようなことを踏まえ、緊急時に対応できるまちづくりというふうにして、ここにコロナのことを盛り込むといふのは、もうできないのかなといふのをずっと思っていたのですけれども。

結構、貧困状況とかも出ているのですよね。そういうのは、ゆとりとか書いてあるけれども、ゆとりとか言っている場合ではないかもしれないけれど、この指標の下方修正とか、ま

さに委員がおっしゃったターゲットिंगみたいなことというのをもっとやっていかないと、治安問題につながるという局面にあるのかなというような気もしています。

【会長】

コロナ禍でこの運用というものをどうしていくのかということは、指標の下方修正であるとか、今後の評価、あるいは新たな取組に結びつけていくということを含めて、いろいろ出てくるとは思うのですけれども、なかなか個々に全部をここで盛り込むということは難しいとしても、基本的に白井市としては、どんな認識、状況でいるのかというのを一言頂けますでしょうか。

【事務局】

昨今、新型コロナウイルスを原因とした混乱状況というのは皆さん実感されているかと思います。このような中で、どういうふうなまちづくりを進めていこうかというようなことについては、非常に苦慮するところでございます。

今回、この計画策定に当たって、このコロナの問題とどう向き合うかというところにつきまして、いろいろ検討させていただいた中で、まだまだコロナ自体も先行きが不透明な部分が多すぎて、まだ先を見通せるような状況でないというような状況です。その中で、どういう方針を決めていくかというのも、やはり当然決めきれない部分がございますので、今の素案の中では3ページになるのですけれども、この中で下段のほうになります、新たな課題というところで、コロナについてのいわゆる課題認識というふうな形で提示をさせていただいております。

なかなか先読みができないので、計画をどう変更するかというのは、今の時点ではなかなか手をつけられない部分がございますので、今後この計画を進めていく中で、こういった状況の中で、臨機応変に対応していくというような形で、運用の中で調整を取っていくというような形に計画上はさせていただくような案を作成させていただいたところでございます。

【会長】

他にはいかがでしょうか。

【委員】

例えば、この16ページの「かかわれる農」のまちづくりとかで、耕地面積が成果指標であるのですけれども、現状値と目標値が一緒という感じになっていて、それは私もそのとおりであってほしいなと思うのですが、それを維持するために、例えばどういうふうやっていったらいいのかなとか、そういうことが、さっき委員さんが言ったように、何か白井市として、こういうところを考えているとか、そういうのが見えるような成果指標というのがあるといいと思います。いろいろ見ていて、それを減らさなければいいのかなというだけで、例えばこれから自分たちが関わっていく中で、どういうふうに評価していったらいいのかなというのがちょっと分かりづらいところがあって。

そうすると、例えば、18ページの自然保護活動に取り組む市民の割合とかを上げることができればいいけれども、それはどういうふうにやっていくのか。それが果たして緑を大事にしていくことにつながっていくのかなというふうに、増やして、あるいは維持していくことにつながっていくのかなとかと考えてしまうと切りがなくというか、難しいのですけれども。

例えば、もっと身近なところでいうと、自治会の中でおうちがたくさん建っている中で、どうしても木を切ってくださいらないというお宅があって、木が道路にはみ出していて邪魔なのだけでも直接言えない場合、自治会の中で、例えば、どこのお宅とかというのは言えないが、そういうお宅があるので切ってくださいねというふうに言うことは時々あって、分かった方は切ってくださいます。そういう感じで、皆さんがちゃんと維持していけると、ここにもあるけれども、自宅の庭木や生け垣のみどりを良好に維持管理するとあるのですが、こういうのが本当に大事だと私も思っているのですけれども、それをやるために、いろいろな人がいろいろなところで動いたりとか、関わっていくということが市を盛り上げていく中で大事なので。きれいな成果指標があると、そこに目が行きがちなのですけれども、実はみんなが取り組めることとところが意外とポイントとして高いのだなと思います。基本計画と自分たちができることとのギャップがありすぎてしまっても、市民活動には取り組めないけれども、でも家の木をきちっと切っておくというのはできるなとか、そういう気持ちができるような、そういうことが表せるものがあつたらいいなと思いました。

【会長】

この「もっと豊かに～みんなで取り組めること～」というのは、今回、後期の計画をつくる中でかなり工夫をしていただいたところで。ただ行政がやるべきことを描いていたって駄目なのだというのは、この審議会でもずっと議論をしてきているところですから、そういう中でどういう裾野を広げていけるか、どういうつながりをつくり出していけるのか。その中で、どういう指標を立てて、どういう評価をして、また次に改善していくのかという、そういう動きもその中に位置づけていくということをしないと、それぞれが個々ばらばらで、結果的に何もつukられないということが最悪な形ですから、まず今、御指摘いただいたようなことは、なかなか表現としては十分でないところはありますけれども、今後の運用の中で、そこはしっかり捉えていく。これはまた、毎年度評価をしていくことになるわけですから、また今後の評価体制がどうなるかは未知数ですけれども、またいろいろなワークショップを重ねていくような中で、今御指摘いただいたようなイメージをもっと膨らませていく。これが各部署もさることながら、もっと地域の現場にもこういう考え方が浸透していくような、そういう動きに結びつけていくというのが本来の総合計画の運用の仕方だと思いますので、その辺とともに、ぜひその辺も意見として盛り込めればなというふうに思います。

【委員】

先ほど、白井市のことだけではなくてというお話が出た中で、例えば、資料3の22ページを開いていただくと、「都市拠点がにぎわうまちづくり」で成果指標の、製造品出荷額と年間商品販売額。ここの下に、もっとポイント数が小さくても、お隣の鎌ケ谷市と印西市の現状値を入れてもらえると、白井はこんなふうだったと比較ができます。先ほどから、白井はどうも駄目だよという話はあるのだけれども、鎌ケ谷、印西に比べて製造業の出荷額は圧倒的な大きいボリューム感があるのですね。そういったものも一般の市民の方にも知ってほしいなという意味で少し入れてほしいなと。

そういう意味では、ただ数字だけ見ると、1,714億はどんな数字なのかなというのは、なかなか分かりにくいじゃないですか。そんな意味では農業でもそうなのですから、市民の人たちもこれから参加してもらおうよと。

そういう意味では、今ほど出た、みんなで取り組めることと、こういう欄があることは大変いいなと思う。この辺のところもよく見て、また気がついたことを書かなくてはなと思っておりますが、ぜひ他の市町村のボリューム感と、白井市、印西と鎌ケ谷、11万と10万の間の6万3,000人。その中でもこういう点があるのだよみたいなのを気づくようなデータも盛り込んでほしいなと思います。

【委員】

先ほど、委員さんが、市で取り組むことと、個人で取り組むこと、あと、図とかで分かりやすくするというお話があったと思うのですけれども、今回作っていただいた資料1-2の参考資料が、どういうことを取り組んでいるのかというのがこれを見るとよく分かりまして、例えば29ページにあるような、枠で囲って、環境フォーラムの開催とか、何に取り組んでいるのか書いてあると思うのですけれども、市町村で取り組むのはこういうこと、では、一人一人が家でできることはこういうことみたいな感じで入れていただくと、この戦略というのが自分たちに近いものであるという認識ができたり、少しでも何か自分でできること、これだったら私できるということに取り組めたりすると思うので、例えば図とかでしたら、こういうものは分かりやすいので、写真ではなくて絵でもいいので、市ではこれからこんなことを取り組みます、では皆さんは各家庭とか市民団体でこんなことをしてみてくださいというふうにしてくださると、指標とか成果に近づけるようなことが、私たちも取り組めるのではないかなというふうに思いました。

【委員】

その点なのですが、この「もっと豊かに」と書いてあるところは、実は市民指標ですよ。市民がこれをやると成果指標につながるということなので、運用の面で、ここの取組指標に書いてあることは、結構、市がやること、団体がやることはすごく遠いので、市民指標とか参加指標とかいうのをこれよりだんだん細かいのをつくっていきますよね。評価のときに、市はこんなに頑張ったのだけれども、市民の方々が御協力いただけなかったの

でというようなこともあると思うのですよ。なので、この、市民ができる、みんなで取り組めることはいいと思っていて、これを数値化する。例えば、市内での買い物を心がけるのは月1なの、週1なのって分からないじゃないですか。ここら辺がもうちょっとやっていくといいのかなと思います。

【会長】

おっしゃるとおりですね。その辺、市民としても何ができるかということをお互いに共有していくことができるようなものがあるというのは非常に大事で、この辺はいずれにしても、今後の評価の中でどういうふうに洗い出していけるかと。その中で評価を重ねながら形をつくっていけるような体制というのを整えていく必要があるのかなというふうに思います。

あと、どう見せるかという、この見せ方ですよ。ここも非常に大事な部分があって、分かりやすさという点もそうだし、私は個人的にはナラティブとあるべきだと。ナラティブというのは、物語的ということで、例えば、農にしても、教育にしても、何にしても、今、白井はどういうふうな動きがあるのかと。そこに自分が関わることによって、またどんな、例えばやりがいが出てくるのかとか、あるいはどういうことに貢献できるのかとかと、ストーリーがどんどんつくられていくのです。そういうものが網の目のように折り重なるというのが個人的に思っているまちづくりのイメージなのですけれども、そういうものがどんどんつながってこない、単に誰かが何かやっていたらいいという話ではないので、そういうそれぞれが関わっていけるようなことが大事だということ、うまく見せていけるかどうかということが大事なのかな。それはそういうストーリー性もそうだし、また、データの的にも。

ちなみに、武蔵野市がかつてやったのは、コミュニティカルテとやったのを御存じですかね。コミュニティカルテという考え方があって、それはどんなものでもいいのです。例えば、公園だったら、公園というのが一定の地区の中にどういうふうな形で配置されているのか。その距離、活用のされ方というのが、同規模自治体と比べてどんな状況なのか。それが比較優位にあるのか、劣位にあるのかによって、また重点施策というものを捉えていくという、そういうまちづくりとかをコミュニティカルテづくりなんていうのは、もう数十年前から注目されて、日本だと武蔵野市とか神戸とか、そういったところでやられてきて、非常にこれまた大事な手法ではあるのですけれども。それも見せていくということなのです。それぞれの課題が、今、この市としてはどんな状況なのかということが見えてこない、人は動かないというところもありますから、これはこの計画の中に盛り込むというよりも、今後の運用の中で工夫を施していけるところなのかなというふうにも思いますので、非常に大事な御指摘かなというふうに思います。

時間になりましたけれども、今回は今日頂いた御意見、それから、これまで頂いた御意見等を取りまとめたものを皆さんに改めて御確認いただいて、最終的な答申、あるいはそ

れに付す意見ということで、まとめをできればなというふうに思っております。

ということで、では、議題の2は以上ということにさせていただいて、議題の3、その他、事務局のほうからお願いします。

(3) その他

【事務局】

ありがとうございました。

次回の会議についてですが、先ほどちょっと触れさせていただきましたけれども、8月21日10時から、会場はこの会場になります。そして、現在の委員の任期が今年の8月30日までとなっておりますので、次回の会議がこのメンバーでの最後の会議となります。次回の会議では、先ほど会長からもありましたとおり、答申書案をお示しいただきまして、後期基本計画策定の総仕上げを行うこととなりますので、御協力をよろしく願いいたします。

【会長】

では、次回がこのメンバーとしては最後ということになりますので、できるだけ御出席をいただいて、最後のまとめの議論ができればなというふうに思っております。

ということで、第3回の総合計画審議会は以上で閉じさせていただきたいと思います。お疲れさまでした。